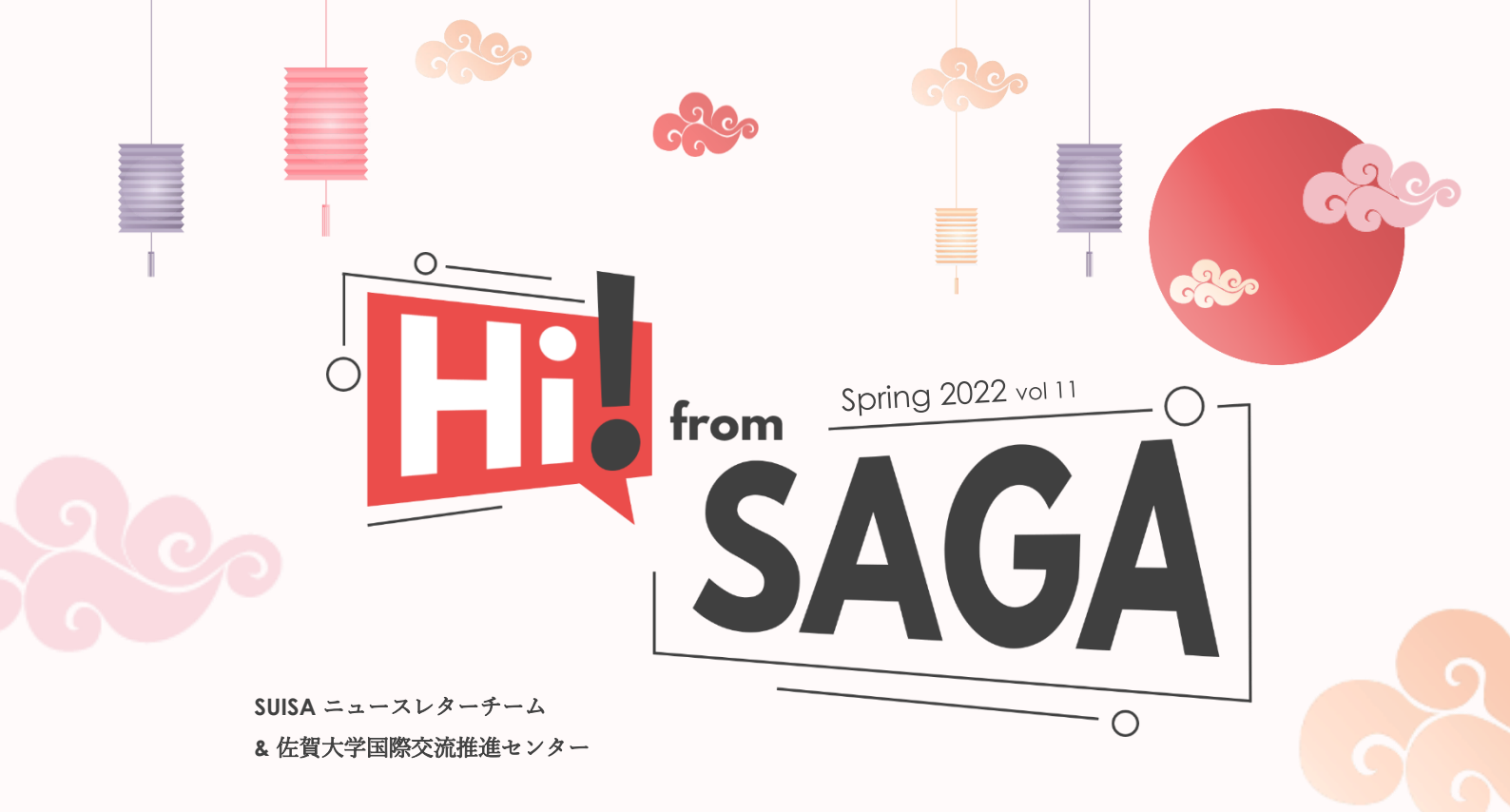




Hi! from SAGA

Spring 2022 vol 11

SUISA ニュースレターチーム
& 佐賀大学国際交流推進センター

佐賀での文化交流

私たちの友達で元佐賀大学生である女性が日本人と外国人がお互いのことや文化を知り理解するために「佐賀国際関連勉強会! (SAGA Global Study Group!)」という異文化交流グループを立ち上げました。私たちは彼女にインタビューを行い、彼女の活動について詳しく教えてもらいました。

卒業の日

2022年3月佐賀大学は学位記授与式が執り行われました。その1日はお別れの日であり、また新たな旅立ちへの始まりの日でもあります。卒業生として当日の様子や感想を綴りました。

佐賀大学の「国際交流アソシエイト」について知ろう

国際交流推進センターには佐賀大学生が対象の「国際交流アソシエイト」というポジションがあります。私たちは今年度からセンターでアソシエイトとして働き始めた留学生にインタビューしてみました。

佐賀大学国際交流推進センター

+81-952-28-8169

ryugaku@mail.admin.saga-u.ac.jp

<https://www.irdc.saga-u.ac.jp>



佐賀での文化交流

私ともう一人のSUISAメンバーが初めて日本に来た時、当時佐賀大学内で国際関係を促進することを目的として活動していたグループ「グローバルリーダーズ」のメンバーである一人の日本人と知り合いになりました。その人の名前は上野明音（めい）さんです。彼女は親切で、親しみやすく、世界中の異なる文化や言語を学ぶことに熱心な人でした。新しい文化に触れることが大好きで、卒業後はフィリピンのセブ島で就職したそうです。現在、佐賀に帰ってきており、外国人や自分と同じように異文化に触れるのが好きな日本人と文化交流をしたいという思いで、「佐賀国際関連勉強会！」を開催しています。今日は、そんな彼女にインタビューしてみました。彼女の活動がどのような活動なのかみてみましょう。



ご自身のこと、開催しているイベントについて、少しご紹介ください。

上野明音（うへのめい）です。佐賀大学文化教育学部を2018年に卒業しました。卒業後は、英語教育系の会社に入り、佐賀で2年間、フィリピンで2年間スクールマネージャーとして働きました。2022年2月に佐賀に帰ってきて、4月から「佐賀国際関連勉強会！(SAGA Global Study Group!）」を金曜日にしています。この勉強会は、「異文化を当たり前に(Normalize Diversity)」することが目的です。佐賀に住んでいる人たちが、違う文化の人と会い、たのしく学びあえる場所にしたいと思っています。



いつから外国の文化について興味を持ち始めましたか？

小学3年生の時に、姉が外国の高校に留学したことがきっかけです。姉は、留学中、私たち家族に、手紙やおかしを送ってくれました。そのとき初めて見た外国のカラフルなレターカードや、変なお菓子は、日本と全然ちがうので、びっくりしたことを覚えています。そこから、外国の言語に興味を持ちました。小学校の図書館で、いろいろな国のあいさつを勉強することが好きでした。

佐賀大学での学びは、外国の文化を理解することに対して、どのように役立ちましたか？

佐賀大学の授業と課外プログラムは文化学習に役に立ちました。学生の時、勉強はあまり頑張りませんでしたが、英語と韓国語の授業はたくさん受講しました。特に留学支援英語教育カリキュラム(ISAC)の中で、今は亡き Terry Fellner 先生から、英語の基礎を鍛えられました。本当に感謝しています。また、授業以外では、実際に海外に行き、異文化に触れることができました。例えば、1か月の短期留学プログラム、8か月の交換留学、1年間無料休学制度、給付型の奨学金など、佐賀大学の様々なプログラムを利用しました。

佐賀大学の在学中に、外国の友人とたくさんの活動をしましたか？

はい！毎日留学生といろいろなことをしました。まず、「グローバルリーダーズ」メンバーとして、"Language Lounge にほんご/韓国語"というイベントを担当して、留学生に参加してもらいました。チューターとして、留学生の生活サポートもしました。さらに、国際交流サークル"Life"に入って、イベントで留学生の友達を作りました。国際交流が日常になり、毎日楽しかったです。旅行やカラオケ、おいしいごはんも一緒に食べました。



フィリピンに仕事に行っていたとお聞きしましたが、現地での経験を少しお話していただけますか？

とてもよい経験になりました。日本からフィリピン支部に赴任して、150人以上のフィリピン人と2年間働きました。日本の小学校～高校とフィリピンの英語講師をつなげる橋渡し役として、レッスン/スケジュールのマネジメントをしました。仕事の日朝から夜まで残業ばかりしていましたが、休みの日は、フィリピン人、ベトナム人、韓国人、中国人の友達とよく外にでかけました。また、人生のメンターのなにも会うことができ、人生が豊かになったと感じます。コロナによるロックダウンや大きな台風の被害など、予想外の体験もフィリピンでしたが、そこから学ぶこともたくさんありました。

はじめて仕事で海外に滞在したとき、どのように感じましたか？留学に行くことと違いましたか？

私の場合、海外留学と海外勤務はまったく違うものでした。留学は個人の成長を目指して行くものですが、仕事は顧客のニーズをチームで理解し、協力しながら応えることが一番大事です。一年目は大変でした。文化の違う人たちに、仕事をお願いしても、全然違う理解をされて、予定通りに仕事が進みませんでした。何度も、「あー、これが、日本人だったら、仕事はがやいのに。」と、いらいらすることもありました。自分の常識を押し付けて、フィリピン人の気持ちを傷つけてしまうこともありました。今思うと、本当に悪いことをしたと思います。しかし、2年目は、フィリピン人の友達も増えて、フィリピン人の考え方や、いいところが見えるようになりました。2年目は、文化が違うということに注意しながら、仕事のやり方を変えて、楽しく働くことができました。その時、初めて、本当の異文化理解ができたように感じます。

最後に、「佐賀国際関連勉強会！」で実現したい近い将来の目標をお聞かせください

「佐賀国際関連勉強会！」で、私がしたいことは「異文化を当たり前に」することです。国籍にかかわらず、一人ひとりが違う文化を持っています。その上で、相手のことを考え、工夫しながらコミュニケーションをとると、必ず新しい発見があります。その感覚を一人でも多くの人に感じて欲しいです。この勉強会メンバーが一つのコミュニティになって、なんでも意見を共有できるような場になればとても嬉しいです。言語はただのツール。交流言語は、英語でも、日本語でも、なんでもいいと思っています。英語勉強会にはしたくありません。会話をとおして、言語ではない、もっと価値のあることを学びができるようにしていきたいです。

今、私の一番の目標は、佐賀に住む技能実習生が定期的にこのグループに参加してくれるようにすることです。本やテレ

ビで、技能実習生が不当な扱いを受けている情報をよく耳にします。技能実習制度は、人権を無視した制度だと思います。佐賀の実習生たちが、苦しんでいないか心配です。佐賀に住む人たちだけでも、コネクションを作って状況を改善する手助けをしたいです。そして、佐賀の友達をたくさん作ってほしいです。

今後、この勉強会をきっかけに佐賀人の異文化理解力が高められれば、佐賀はもっと良くなると思います。将来、社会問題を自分ごとにするような人が「佐賀国際関連勉強会！」で増えれば本望です！！

以上、上野明音さんのインタビューをお届けしました。もし、「佐賀国際関連勉強会！」に興味を持たれた方がいらっしゃいましたら是非、下記のチラシをご覧ください。また、勉強会でお会いできるのを楽しみにしています。

(ピームマパット)



卒業の日

人間である以上、さまざまな困難や達成に遭遇し、「人生」と呼ばれるものを作っています。しかし、「卒業」は人生の節目として認識されるありがたい瞬間の一つであることは間違いありません。

私は、佐賀大学大学院先進健康科学研究科の修士課程を卒業しました。卒業式当日は雨で、いつもであればベッドでコーヒーを飲みながら映画を見るのにとってもいい日だったでしょう。しかし、この日は私にとって特別な日で、目覚まし時計が鳴る前に起きてしまいました。留学生として、日本の卒業式で卒業を祝われること、その文化を体験するのは初めてのことであったので、とても楽しみにしていました。卒業式は、佐賀市文化会館での式典と、大学の研究室の先生方からの学位記授与の2回に分かれていました。

卒業式の日の朝、一緒に卒業する友人たちと会場に行きました。空気は冷たく、天気は雨。しかし、昨夜の雨で辺りの

木々は青々としていました。会場に着くと、多くの卒業生が楽しそうに写真を撮っているのが見えました。女の子は袴、男の子はスーツを身にまといました。朝早い時間にもかかわらず、みんな元気いっぱいでした。式では、学長の挨拶や各学部・研究科の主任教授との懇談もありました。

今年は桜の開花が早く、満開の桜とともに佐賀大学の卒業式を迎えることができました。2021年3月23日、佐賀市文化会館で卒業式が行われました。しかし佐賀大学では、新型コロナ感染対策のため、今年度も親族の参加はできませんでした。とはいえ、今年も卒業式があるということで、みんな本当に喜んでいました。私もその一人で、今年は卒業式を楽しむことができました。

その日は、まずバスで佐賀駅に行き、そこで研究室の仲間と合流し、一緒に会場に向かいました。会場はとても混雑していましたが、全員がマスクを着用し、ソーシャルディスタンスの取り方もルール化されていたので、安全でしたし、式が始まる前に学籍情報と座席番号を提出する必要がありました。

最初の式典は、オープニング、君が代斉唱、学位記授与、佐賀大学学長挨拶、学生からの一言、学生賞の発表、そして閉会と続きました。私自身は、卒業式の袴姿に日の丸と佐賀大学の旗を掲げて君が代を斉唱したとき、「すごいなー」と思いました。これまでの日々がどれだけ大変だったかを思い出し、涙が出そうになりました。神様、ありがとうございます。

2回目の式は大学内で行われました。この式では、一人ずつ会場の前に来て、各学科の主任から卒業証書をもらうことになっていました。

午前中の式が終わって、研究室に戻り、教授に挨拶をしました。日本では、学位記はそれぞれの教授から授与されるのですが、これは私がこれまで日本で学んだ大学の卒業に関する文化の一つです。学位記を受け取った後、同じ時期に卒業した友人や、応援に駆けつけてくれた友人とともにとても楽しい時間を過ごすことができました。

卒業式は感動と達成感のある日だと私は結論付けます。しかし、それは終わりではなく、人生の始まりに過ぎないのです。人生がボートなら、学位記はボートを漕ぎ出すためのパドルです。卒業後は、自分の人生に全責任を持たなければなりません。ですから、卒業は人生のターニングポイントの一つであると言えます。

最後になりましたが、これから卒業を迎える友人たちに、"今までよく頑張ってきたね、胸を張ってこの経験に自信を持っていこう！"と声をかけたいと思います。

(ミヤット トユー サン)



国際交流アソシエイト

「国際交流アソシエイト」とは、外国語や日本語の能力、国際交流の知識や経験を活かして、国際交流推進センターの職員と一緒に働く佐賀大学の学生のことです。

国際交流アソシエイトは、自分の技術や経験を活かすだけでなく、日本のオフィスで働くという新しい経験を通し、日本のビジネス文化やマナーを学ぶことができます。

学生アソシエイトの登用は、国際的に活躍できる人材を育成することを目的としています。業務は国際交流推進センターと協力して、翻訳業務や資料などの作成、また留学生の日常生活などもサポートしています。海外の大学との国際交流やフォーラムなどの公式行事にも参加することもあります。現在は、中国、ベトナム、マレーシアからの留学生4名が国際交流アソシエイトとして在籍しています。

今回は、マレーシアから佐賀大学に留学中のリー・ジン・イェンさんにインタビューしました。理工学研究科機械システム 工学コースの1年生です。



彼は今年の4月から国際交流アソシエイトとして、国際交流推進センターで働いています。

それでは、彼がこのチャンスを得たきっかけを探っていきましょう。

リー：きっかけは国際交流推進センターから届いた「国際的に活躍し、日本のオフィス環境を知ることに興味はないか」というメールです。募集情報は国際交流推進センターのホームページや SNS にも掲載されていて、ほぼ毎年募集しているようです。

以前、リーさんは私に異文化交流が好きだと教えてくれましたよね。

リー：はい。アソシエイトとして働くことで、様々なバックグラウンドを持つ留学生とコミュニケーションをとることが出来、国際的な視点を広げることが出来ると思ったのです。次に、アソシエイトは日本人と一緒に仕事をすることが求められます。卒業後は、日本で働きたいと思っているので、日本のオフィス環境になれるいい機会だと思ったのです。

リーさんは国際交流アソシエイトの仕事についてこのように語っています。

リー：国際交流アソシエイトとして国際交流推進センターで働くことは面白く、様々なジャンルの仕事に参加することが出来ます。そのおかげで佐賀大学についてもっと知ることが出来ます。もちろん翻訳や資料作成の作業は大変なこともありますが、その分、得ることが多く、充実しています。

私はリーくん「この仕事は留学生にお勧めですか」と尋ねたところ、「はい!」と返事が返ってきました。

リー：佐賀大学が国際的に何を目指しているのか、佐賀大学を国際的な視点から知ることが出来ます。また、様々な活動に参加することで、異なる文化的背景を持つ人たちとコミュニケーションすることが出来ます。さらに、日本人と一緒に働くことによって、日本のオフィス環境に慣れることができ、日本での就職活動にも有利になるかもしれません。

最後に、Lee くんからメッセージを頂きました。

リー：日本で就職を考えている留学生にとっては、日本のオフィス環境に慣れるいい機会になるかもしれません。また、プログラム期間中は謝金が出るので、働きながら大学生活を楽しむことが出来ると思います。

(ジェフリ)

編集

ファラパー ピームマパット、工学系研究科博士課程 2 年

ミヤツト トユー サン、大学院連合農学研究科, 博士課程 1 年

國弘 貴之、教育学部 小中連携教育 中等主免教育 英語専攻 4 年

ジェフリ テウリ アーディアンサ、理工学研究科博士課程 2 年

留学生交流室 北村葉さんに特別な感謝を捧げます